



「新脳鍼療法」をベースに新しい脳科学からのアプローチ

【覚醒下脳鍼とは】

覚醒下脳鍼（かくせいかのうしん）AWAKE BRAIN ACUPUNCTURE（ABA）は、前田東洋医学研究院グループ代表・前田為康が脳科学の研究をもとに開発した、新しい鍼療法です。

ABAは経頭蓋低周波刺激療法（ニューロモジュレーション）と呼ばれる治療法の一つであり、患者様が意識を保った状態「覚醒した状態・」で頭皮へ鍼を行い、微弱な電気刺激（低周波通電）と（運動療法）を組み合わせることで、脳と身体の神経ネットワークへ能動的にアプローチすることを目的としています。

従来の鍼療法だけではなく、「脳」「神経」「身体の動き」「意識」を同時に活用することが特徴です。

【覚醒下とは】

「覚醒下」とは、眠っている状態や麻酔下ではなく、意識がはっきりしている状態を意味します。治療中も身体を動かし、自分自身で動作や感覚を確認しながら行うことで、脳が身体の情報を受け取りやすい環境をつくります。

「身体を動かす」「身体を意識する」「治したいという意識を持つ」ことも、治療の大切な要素の一つと考えています。

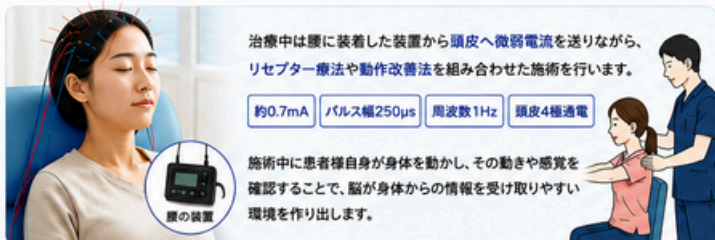
覚醒下脳鍼（ABA）とは

覚醒下脳鍼（AWAKE BRAIN ACUPUNCTURE: ABA）は、前田東洋医学研究院グループ代表の前田為康が、脳科学の研究をもとに開発した新しい鍼治療です。従来の鍼治療とは異なり、「脳」「神経」「身体の動き」「意識」を同時に活用することが最大の特徴です。

治療の仕組みと「覚醒下」という環境

「覚醒下」とは、眠っている状態や麻酔下ではなく、患者様の意識がはっきりしている状態を指します。

本治療では、患者様が意識を保った状態で頭皮へ鍼を行い、以下の要素を組み合わせることで、脳と身体の神経ネットワークへ能動的にアプローチします。



脳科学を応用したメカニズム

覚醒下脳鍼では、「確率共鳴 (Stochastic Resonance)」という脳科学の考え方を応用しています。人の脳は、振動・リズム・摩擦・揺れなどの感覚情報を受け取りながら神経伝達を行っています。



なお、脳深部刺激療法 (DBS) など、西洋医学においても脳や神経への電気刺激は臨床で活用されており、覚醒下脳鍼もこうした知見を参考にしながら独自の治療法として確立されています。

また、「身体を動かそう」「良くなりたい」と本人が意識を向けることを重要視しており、運動・感覚・意識を同時に働かせることで、神経機能の再学習につなげることを目指しています。



対応する主な症状

覚醒下脳鍼は、神経や運動機能に関する様々なお悩みに対応しています。

不随意運動、パーキンソン病	ジストニア、フォーカルジストニア、書痙	軟口蓋ミオクロヌス（口蓋のけいれん）	手足の震え（振戦）、歩行障害、身体の揺れ	てんかん
発達障害・自閉スペクトラム症	認知機能の低下、高次機能障害	アルツハイマー病	※症状や病状によって適応は異なります。詳細はご相談ください。	

【脳科学を応用した治療メカニズム】

◎携帯用パルスを身体に装着し2Hz～100Hzのスウィープモードに設定することで、脳内神経伝達物質が優位に分泌されます。

◎覚醒下脳鍼では、「確率共鳴（Stochastic Resonance）」という脳科学の考え方を応用しています。

◎人の脳は、振動・リズム・摩擦・揺れ・感覚刺激など、さまざまな情報を受け取りながら神経伝達を行っています。

◎適切な刺激を与えることで神経ネットワークが働きやすい状態を目指し、脳・脊髄・末梢神経・筋肉など身体全体をメッセンジャー物質が連携して情報を促すことを目的としています。

◎さらに運動を同時に行うことで、脳から身体への運動指令がより効率よく学習されることが期待されています。

【意識することが大切】

◎覚醒下脳鍼では、「本人が身体へ意識を向けること」を重要視しています。

◎「身体を動かそう」「良くなりたい」という意識を持ちながら運動することで、脳と身体をつなぐをより活性化させることを目指します。

◎運動・感覚・意識を同時に活用することで、神経機能の再学習につなげることが、この治療の特徴です。

◎西洋医学でも脳への電気刺激は活用されています

◎現在の西洋医学では、脳深部刺激療法（DBS（脳深部刺激療法）、VNS（迷走神経刺激療法）、経皮的迷走神経刺激（tVNS）など、脳や神経へ電気刺激を与える治療法が臨床で用いられています。

◎覚醒下脳鍼も、こうした脳科学・神経科学の知見を参考にしながら、鍼施術と運動療法を融合させた独自の施術法です。

【このような症状・お悩みに対応しています】

覚醒下脳鍼は、以下のような神経・運動機能に関する症状への応用を目的として行っています。

- | | | |
|-------------|-----------------|---------------|
| ・不随意運動 | ・脳室周囲白質軟化症（PVL） | ・パーキンソン病（PD） |
| ・ジストニア | ・脳性麻痺（CP） | ・脊髄小脳変性症（SCD） |
| ・フォーカルジストニア | ・広汎性発達障がい | ・多系統萎縮症（MSA） |
| ・書痙 | ・自閉症スペクトラム | ・歩行困難 |
| ・軟口蓋ミオクロヌス | ・認知機能の低下 | ・手足の震え（震戦） |
| ・口内セネストパチー | ・アルツハイマー病 | ・身体の揺れ |
| ・てんかん | ・アミロイドアンギオパチー | ・その他 |

【まとめ】

覚醒下脳鍼は、

「頭皮への鍼刺激」⇒「微弱電流による脳への刺激」⇒「運動療法」⇒「身体への意識」

この4つを同時に組み合わせることで、脳と身体の神経ネットワークへアプローチすることを目的とした新しい治療法です。

前田東洋医学研究院では、新脳鍼療法をはじめ脳科学と東洋医学を融合させた独自の治療法として、患者様一人ひとりの状態に合わせた施術を行っています。